

平成26年度 遺跡調査報告会

展示・報告遺跡

■白蛇遺跡(八戸市上野 古代)

八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館

西村 広経

■田面木遺跡(八戸市田面木 古代)

八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館

田中 美穂

■熊野堂遺跡(八戸市長根 古代)

八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館

苧坪 祐樹

■一王寺(1)遺跡(八戸市是川 縄文時代)

八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館

横山 寛剛



熊野堂遺跡



田面木遺跡



白蛇遺跡



一王寺(1)遺跡



板状土偶 一王寺(1)遺跡出土
大きさ 5.5cm



平成 26 年度 八戸市遺跡調査報告会次第

13:00	報告会展示室開場	14:55	10分休憩
13:30	報告会受付開始	15:05	調査成果報告 熊野堂遺跡
14:00	開会挨拶	15:25	調査成果報告 一王寺(1)遺跡
14:05	平成26年度調査概要	15:45	質疑応答
14:15	調査成果報告 白蛇遺跡	16:00	閉会挨拶
14:35	調査成果報告 田面木遺跡		閉場(報告会展示室は16:30まで)

平成 26 年度発掘調査遺跡一覧

	遺跡名	時代・種類	所在地	調査原因	調査面積	調査期間	
試掘調査	1	山内遺跡	縄文・平安・散布地	大字糠塚	個人住宅建築	15㎡	4月7日～8日
	2	田面木遺跡	平安・集落跡	大字田面木	太陽光発電設備	8㎡	4月9日
	3	帽子屋敷遺跡	縄文・貝塚	類家二丁目	個人住宅建築	24.5㎡	4月11日
	4	松ヶ崎遺跡	縄文・集落跡	大字十日市	太陽光発電設備	102㎡	4月14日～16日
	5	市子林遺跡	縄文・古墳～近世・集落跡	大字妙	個人住宅建築	0.75㎡	4月17日
	6	田面木遺跡	平安・集落跡	大字田面木	個人住宅建築	21㎡	4月17日
	7	八戸城跡	近世・城館	内丸二丁目	個人住宅建築	30㎡	4月17日
	8	八戸城跡	近世・城館	内丸二丁目	個人住宅建築	30㎡	4月17日
	9	八戸城跡	近世・城館	内丸二丁目	個人住宅建築	29㎡	4月18日
	10	八戸城跡	近世・城館	内丸二丁目	店舗兼住宅建築	20㎡	4月21日
	11	山内遺跡	縄文・平安・散布地	大字糠塚	宅地造成	359㎡	5月7日～14日
	12	松ヶ崎遺跡	縄文・集落跡	大字十日市	事務所建設	14.5㎡	5月15日
	13	新井田古館遺跡	中世・城館	大字新井田	太陽光発電設備	109.5㎡	5月9日～14日
	14	市子林遺跡	縄文・古墳～近世・集落跡	大字新井田	宅地造成	61㎡	5月16日
	15	石橋遺跡	平安・集落跡	大字新井田	宅地造成	112.5㎡	5月19日～20日/6月30日
	16	田面木遺跡隣接地		大字田面木	太陽光発電設備	240㎡	5月20日～23日
	17	新田遺跡	縄文・奈良・集落跡	大字是川	太陽光発電設備	84㎡	5月23日～26日
	18	咽平遺跡	縄文・奈良・平安・散布地	大字豊崎町	太陽光発電設備	240㎡	5月26日～29日
	19	根城跡岡前館	中世・城館	根城八丁目	宅地造成	214㎡	6月3日～5日
	20	直渡(3)遺跡	平安・散布地	大字櫛引	太陽光発電設備	149㎡	6月11日～19日
	21	中居林遺跡	縄文・弥生・平安・集落跡	大字中居林	個人住宅建築	10㎡	6月16日
	22	山内遺跡	縄文・平安・散布地	大字糠塚	宅地造成	737㎡	6月16日～30日
	23	稲荷後(3)遺跡	縄文・散布地	大字市川	個人住宅建築	16.5㎡	6月23日
	24	泉沢(1)遺跡	平安・散布地	大字尻内	道路舗装工事	33㎡	6月26日
	25	咽平遺跡	縄文・奈良・平安・散布地	大字豊崎町	個人住宅建築	14㎡	6月25日
	26	浜道通遺跡	縄文・散布地	大字鮫町	配水管改良工事	11.2㎡	7月4日～5日
	27	一日市遺跡	平安・散布地	大字櫛引	個人住宅建築	4㎡	7月31日
	28	櫛引遺跡	縄文・奈良・平安・中近世・城館・集落跡	大字櫛引	舗装工事	28.8㎡	8月11日・19日
確認調査	1	根城跡岡前館	中世・城館	根城八丁目	個人住宅建築	67㎡	4月17日～30日
	2	一王寺(1)遺跡	縄文・集落跡	大字是川	遺跡内容確認	600㎡	8月1日～10月30日
本発掘調査	1	松ヶ崎遺跡	縄文・集落跡	大字十日市	道路改良工事	50㎡	4月25日・28日/6月9日
	2	白蛇遺跡	縄文・奈良・平安・散布地	大字上野	寺院建築	4800㎡	5月8日～7月31日
	3	熊野堂遺跡	縄文・奈良・平安・集落跡	長根二丁目	アパート建築	2554㎡	7月1日～10月31日
	4	田面木遺跡	平安・集落跡	大字田面木	長芋・ごぼう作付け	1100㎡	7月28日～9月30日

報告遺跡

10月現在



平成 26 年度発掘調査遺跡位置図

1. 遺跡の概要

本遺跡は八戸市上野地区に所在します。市中心部から南西に約 7.5km の地点に位置し、馬淵川を南に臨む標高約 29 ～ 35m の河岸段丘上に立地しています。平成 10 年に青森県教育庁文化課によって東北新幹線建設事業に伴う発掘調査が行われ、近代のものとされる溝跡 1 条が検出されました。

2. 検出遺構

今回の調査では、4,800m²を調査し、縄文時代の陥し穴 7 基・飛鳥時代～奈良時代の竪穴住居跡 8 棟・古代の掘立柱建物跡 2 棟・溝跡 3 条・円形周溝 2 基を検出しました。

【縄文時代の陥し穴】

陥し穴は 1 基が円形で、6 基が細長い溝状になっています。円形の陥し穴の底面には、小さな穴が複数見つかりました。この穴は、落ちた動物が逃げられないようにするための逆茂木の跡の可能性がありま。溝状の陥し穴は、底に向かってすぼまっており、はまった動物は底面に脚がつかず逃げられなくなる構造であったと考えられています。

【飛鳥時代～奈良時代の竪穴住居跡】

竪穴住居跡は、平面形態は全て方形で、最も大きい SI1 竪穴住居跡は長軸約 8.0m、短軸約 6.9m です。SI2 竪穴住居跡を除く 7 棟には北西側の壁にカマドが作り付けられています。カマドは石や土器を芯材にして、粘土をはりつけて作られていました。SI1 竪穴住居跡のカマドや煙道の側壁には、他の竪穴住居跡よりも大きな石が使われていました。これらの住居跡は、出土した土師器の特徴により、飛鳥時代の終わりから奈良時代のはじめ頃に位置づけられます。

3. 出土遺物

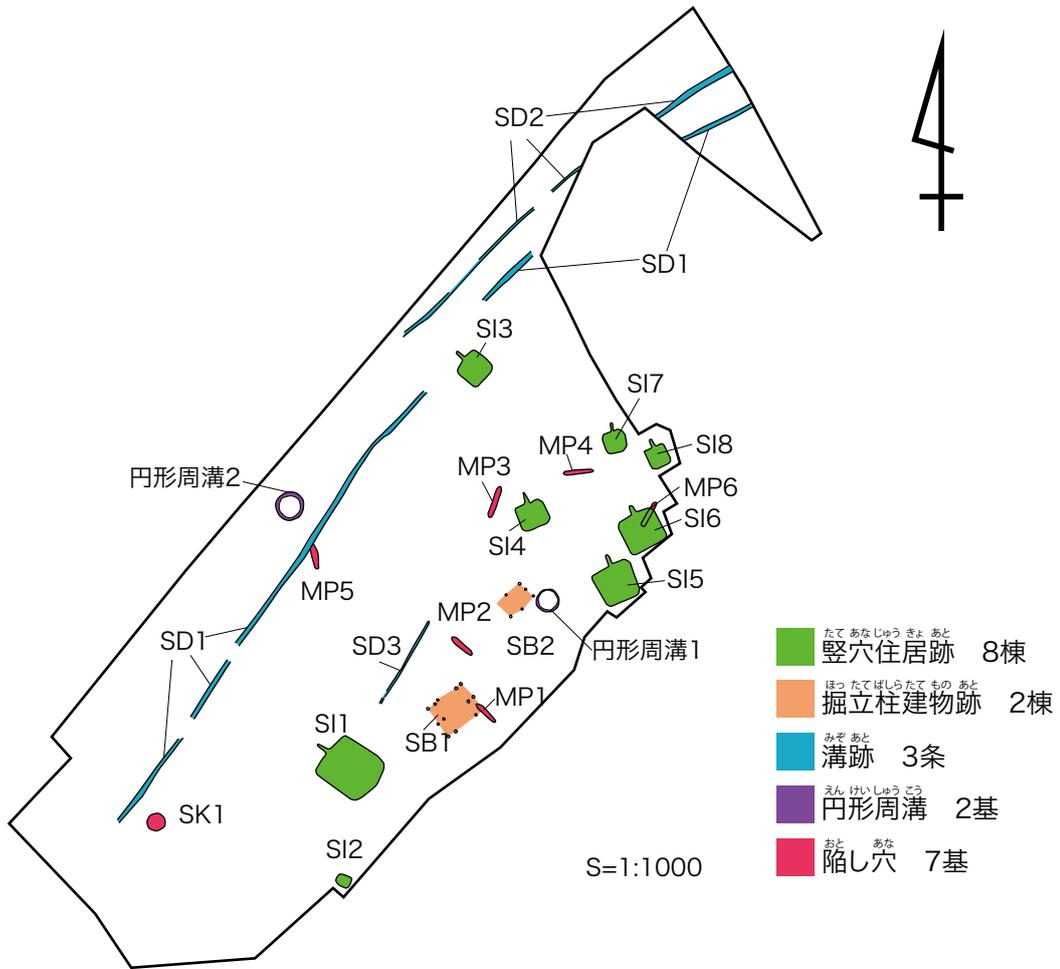
土器・土製品・鉄製品などが出土しました。

土器は、土師器の坏や甕がみつかっています。甕は、カマドの芯材や支脚にも使われていました。甕の形や表面の調整などの特徴から、出土した土師器のほとんどは、飛鳥時代の終わりから奈良時代のはじめ頃のものと考えられます。

土製品は、紡錘車、ふいごの羽口が出土しています。紡錘車は中心の孔に棒を通し回転させて使う、糸紡ぎの道具です。ふいごの羽口は SI3 の床面から出土しました。羽口とともに鉄滓も出土しています。鉄製品は、SI1 竪穴住居跡で刀子が出土しました。そのほか、土玉やガラス玉が出土しています。

4. まとめ

白蛇遺跡の周辺は遺跡の調査例が少ない地域でしたが、今回の調査で、縄文時代には狩猟の場として利用され、飛鳥時代の終わりから奈良時代のはじめ頃には集落がつけられていたことがわかりました。また、ふいごの羽口と鉄滓が出土したことから、鉄器製作が行われていた可能性がありま。八戸地域では、この時期の鉄器製作に関連する資料はほとんどみつかっておらず、鉄利用の歴史を考える上で、重要な成果が得られました。 (西村 広経)



遺構配置図



写真1 SI1 竪穴住居跡



写真2 カマド(SI1 竪穴住居跡)



写真3 SI3 竪穴住居跡



写真4 ふいごの羽口(SI3 竪穴住居跡)

1. 遺跡の概要

田面木遺跡は、八戸市田面木地区に所在し、馬淵川右岸の標高25～50mの丘陵地に立地しています。遺跡は東西約400m、南北約800mの広さがあり、市内の遺跡のなかでも規模が大きい遺跡です。これまでに46か所で調査が行われており、主に奈良・平安時代の集落跡が発見されています。遺跡内では、宅地化が急速に進み、八戸市教育委員会が昭和62年(1987年)以降、開発に伴う発掘調査を断続的に行っています。今回の調査は、長芋・ごぼう作付けによるものです。平成25年度に試掘調査を行ったところ、多数の遺構・遺物が発見されたため、平成26年7月末から10月末まで本調査を行いました。今回は、調査対象面積5,890㎡のうち、1,100㎡を調査しました。

2. 検出遺構

今回の調査では、奈良時代の^{たてあなじゆうきよあと}竪穴住居跡2棟・平安時代の^{たてあなじゆうきよあと}竪穴住居跡19棟・古代の^{ほつたてばしら}掘立柱建物跡1棟・溝跡1条・土坑5基・炉跡2基がみつかりました。

平安時代の竪穴住居跡のなかには、カマドとよばれる煮炊きをする場所とは別に、住居の中央付近に炉跡をもつ住居がありました。竪穴住居跡からは、^{てつせいひん}鉄製品や、^{はぐち}ふいごの羽口・^{てつさい}鉄滓などが出土していることから、炉跡は^{かじろ}鍛冶炉として使われ、鉄器の製作や修理をしていた可能性があります。また、焼失した竪穴住居跡もみつかり、屋根の部材などが炭化した状態で出土しました。

竪穴住居跡の周辺には、土坑や炉跡がみつかりました。中央に焼けた土が厚く堆積し、土器の破片が出土した土坑は、土器を焼くための施設であったことが考えられます。

3. 出土遺物

遺物は、^{はじき}土師器・^{すえき}須恵器・^{どせいひん}土製品・^{せつき}石器・^{てつせいひん}鉄製品などがみつかりました。

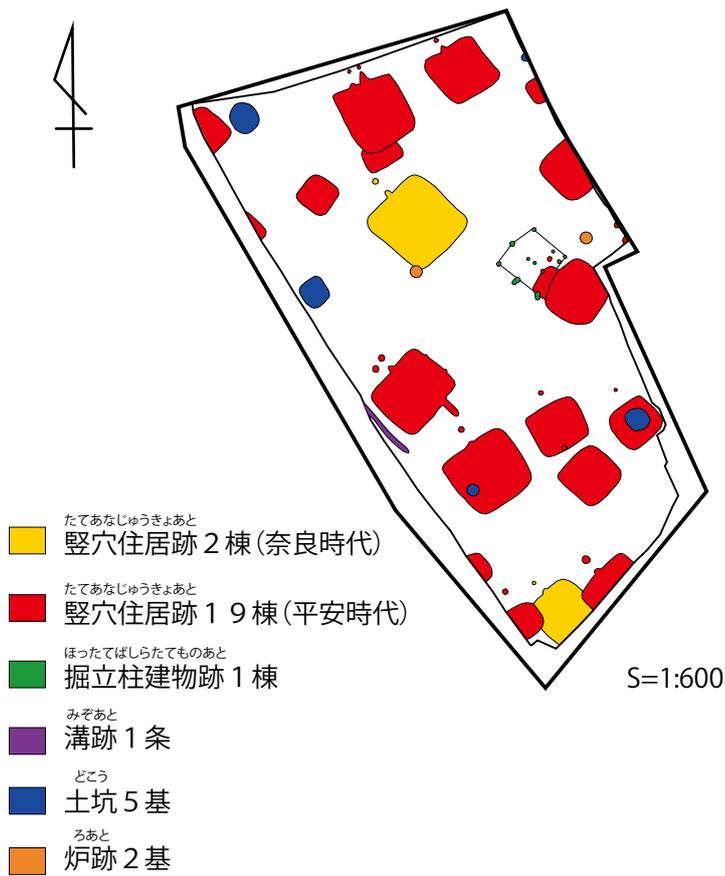
土師器は、食器や煮炊きをする道具として日常的に使われていたものですが、祭祀や儀礼に用いられることもあります。今回の調査では、高台がついた坏の高台部分だけを残すように丁寧に打ち欠き、底部外面に墨で文字が書かれたものがみつかりました。

須恵器は、坏や甕のほか、文字が刻まれた壺の破片が出土しました。

また、刀子・^{てつぞく}鉄鏃などの鉄製品や、鉄器製作に関連する遺物として、ふいごの羽口・鉄滓がみつかりました。

4. まとめ

今回、調査を行った遺跡北側では、主に平安時代の集落跡がみつかりました。これまでの調査で、遺跡中央部・南側には主に奈良時代の集落跡が広がり、北側には平安時代の集落跡がつくられる傾向があることが分かっています。南から北へ居住の場を移しているようです。また、鉄器製作や土器作りに関連すると考えられる遺構がみつかったことから、今後、これまでの調査成果を加え、田面木遺跡に暮らした人々が、どのような生業をしていたのかを検討していきます。
(田中 美穂)



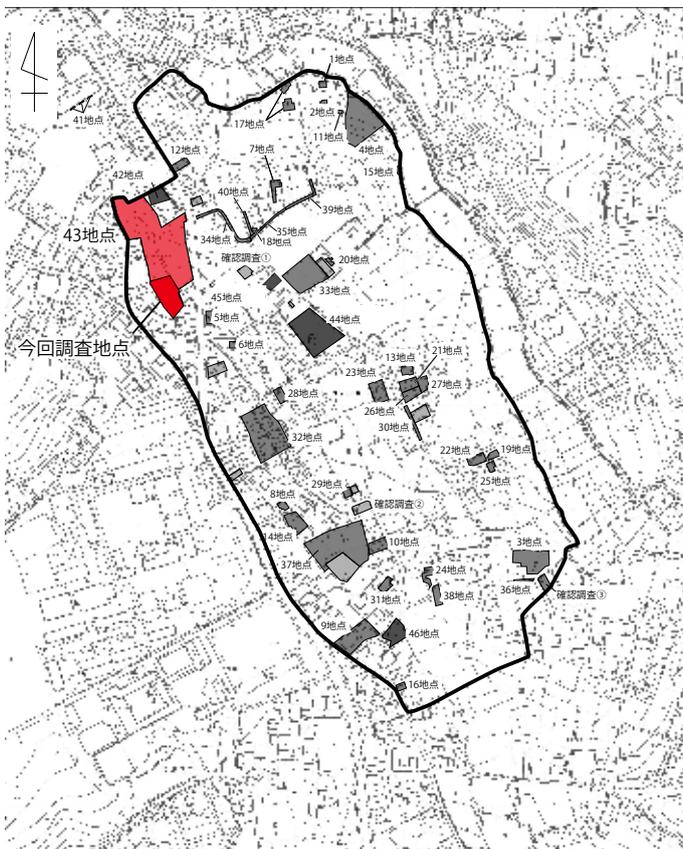
遺構配置図



墨で文字が書かれた土器



文字が刻まれた須恵器壺の破片



これまでに調査を行った場所 (46か所)



調査区全景 (南東から)

1. 遺跡の概要

本遺跡は、八戸市庁から北西へ約 1.3km に位置し、馬淵川右岸の標高 16m の低位段丘上に立地しています。昭和 62 (1987) 年に八戸市教育委員会による区画整理に伴う発掘調査が行われ、奈良時代から平安時代の竪穴住居跡 80 棟、土坑 171 基、溝跡 10 条などを確認し、長期間に渡って大規模に集落が営まれていたことがわかっています。

今回報告する 2 地点は、平成 25 (2013) 年に試掘調査を実施し、古代の遺構及び遺物が多数見つかったことから、平成 26 (2014) 年 7 月 1 日から 10 月 31 日まで本発掘調査を実施したものです。

2. 検出遺構

今回の調査では、奈良時代から平安時代の竪穴住居跡 97 棟・土坑 271 基・溝跡 12 条・炉跡 18 基などがみつかりました。

竪穴住居跡は隅丸方形すみまるほうけいで、カマドを持つものと持たないものがあります。

土坑は、円形・楕円形・方形のものがあり、大きいものでは直径 2 m ・深さ 1.6 m を超えるものがありました。

溝跡は、南北方向や東西方向に伸びており、集落内を区画する役割を担っていたと考えられます。最も規模の大きい溝跡は、幅 2.5 m ・深さ 1.6 m で断面は V 字形やぼんがた（葉研形）をしています。この溝跡は、1 地点でみつかった大規模な溝跡の続きと思われます。

また、鍛冶炉かじろがみつかり、たくさん出土した鉄製品は集落内で製作していたと考えられます。

3. 出土遺物

遺物は、土師器はじき・須恵器すえき・鉄製品てつせいひん・獣骨じゅうこつ・人骨こはく・琥珀などがみつかりました。鉄製品は、刀子とうす・鎌かま・紡錘車ぼうすいしゃ・鉄鍬てつこ・錫杖状鉄製品しゃくじょうじょうてつせいひんなどがあります。ふいごの羽口はぐちや鉄滓てつさいといった鉄器製作に関わる遺物も多く出土しました。

また、獣骨は焼けた土や灰が混じった土の中からみつかりました。特に竪穴住居跡に捨てられたウマの骨は、四肢は切断されていましたが、ほぼ全身が出土しました。

4. まとめ

今回の調査では、現在の市街地の中に奈良時代から平安時代の大規模な集落があったことがわかりました。竪穴住居跡や土坑を廃棄するときには、人為的に埋め戻し、同じ場所に新たに何度もつくり変えていることから、この集落の人々が馬淵川沿いの台地状の土地を好み、暮らしていたことがよくわかります。

今後は、発掘調査でみつかった遺構・遺物の整理作業を通して、大規模な溝跡の性格、ウマの利用方法、金属加工の様相など、この集落の営みがどのようなものであったかを明らかにしていきたいと考えています。

(苧坪 祐樹)



熊野堂遺跡 調査地点位置図

S=1:5000



重複し合う遺構とそれを縦断する溝跡



溝跡断面



竪穴住居跡に捨てられたウマの骨

いちおうじ 一王寺 (1) 遺跡

1. 遺跡の概要

本遺跡は八戸市の中心部から南へ約 4 km、新井田川の左岸に立地します。遺跡西側は標高約 100m の丘陵、東側は標高 18 ～ 44m の新井田川へ向かう緩斜地です。総面積は 32 万 6 千 m² になります。縄文時代前期から中期の円筒土器文化期を中心とした大規模な集落であり、昭和 32 年 (1957) に中居遺跡・堀田遺跡とともに「是川石器時代遺跡」として国の史跡に指定されています。八戸市では、平成 7 年 (1995) から 22 年 (2010) まで範囲・内容確認のための調査を行ってきました。その結果、一王寺 (1) 遺跡と堀田遺跡においてその内容が確定し、平成 25 年に両遺跡の重要な範囲が史跡に追加指定されました。

2. 調査の目的

今年度の調査地点は、昭和 4 年 (1929) による発掘調査で、縄文土器・石器のほか獣骨や貝・鹿の角や獣骨で作られた釣針などの骨角器が多数出土した場所にあたります。当時は「一王寺貝塚」、または字名から「中居貝塚」とも呼ばれていました。今年度の調査は、当時確認された貝塚の位置を特定し、85 年前の発掘調査記録を検証するものです。また、調査されていない場所の発掘調査もおこない、遺跡の内容確認を行っています。

3. 調査要項

遺跡所在地：八戸市大字是川字中居 28-1・2

調査目的：史跡整備のための内容確認

調査期間：平成 26 年 8 月 1 日～ 10 月 31 日

調査面積：約 600m²

調査担当：八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

検出遺構：貝塚、盛土遺構

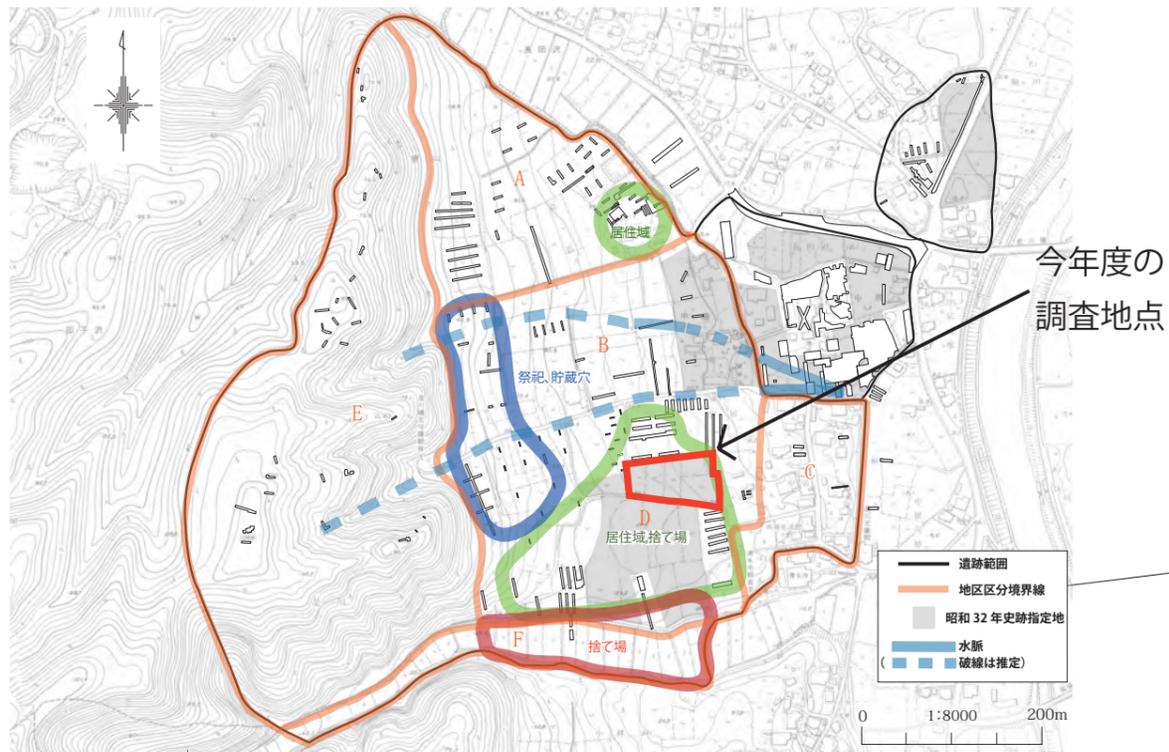
出土遺物：縄文土器、石器 (石鏃・尖頭器・磨石・磨製石斧など)、土製品 (土偶・円板状土製品)、動物遺存体 (貝・骨)、炭化種実、骨角器 (釣針・装飾品・銚頭など)

4. まとめ

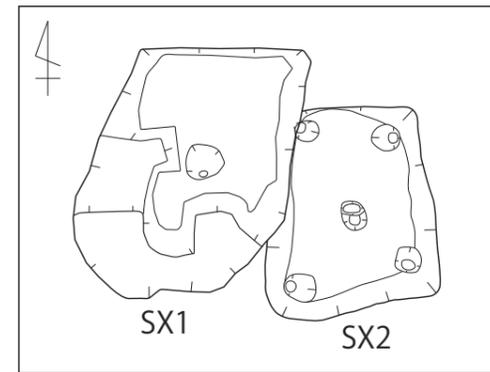
今回の調査成果のひとつは「一王寺貝塚」の位置を確認できたことです。1 トレンチ SX1 (第 2 図) で縄文時代前期の貝層を確認し、第 4 図 11 ～ 14 層がこれにあたります。SX2 でも貝層を確認し、より南側で貝層が厚くなることから、今回の調査区よりも南側に貝塚の中心があると予想されます。なお「SX」は性格不明、つまりよくわからない遺構に付ける記号です。

もうひとつの調査成果は、縄文時代前期から中期の盛土遺構を確認できたことです。1 トレンチ SX1 (第 1 図) の第 2 図 1 ～ 9 層がこれにあたり、盛土に焼土・炭・骨片と多量の縄文土器・石器が混じっています。調査区の旧地形は、北東に向かい低くなるゆるやかな斜面となっており、傾斜面に向かって盛土や遺物などの廃棄が繰り返し行われていたと考えられます。

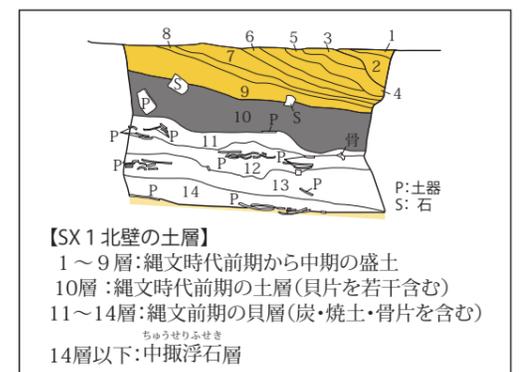
(横山 寛剛)



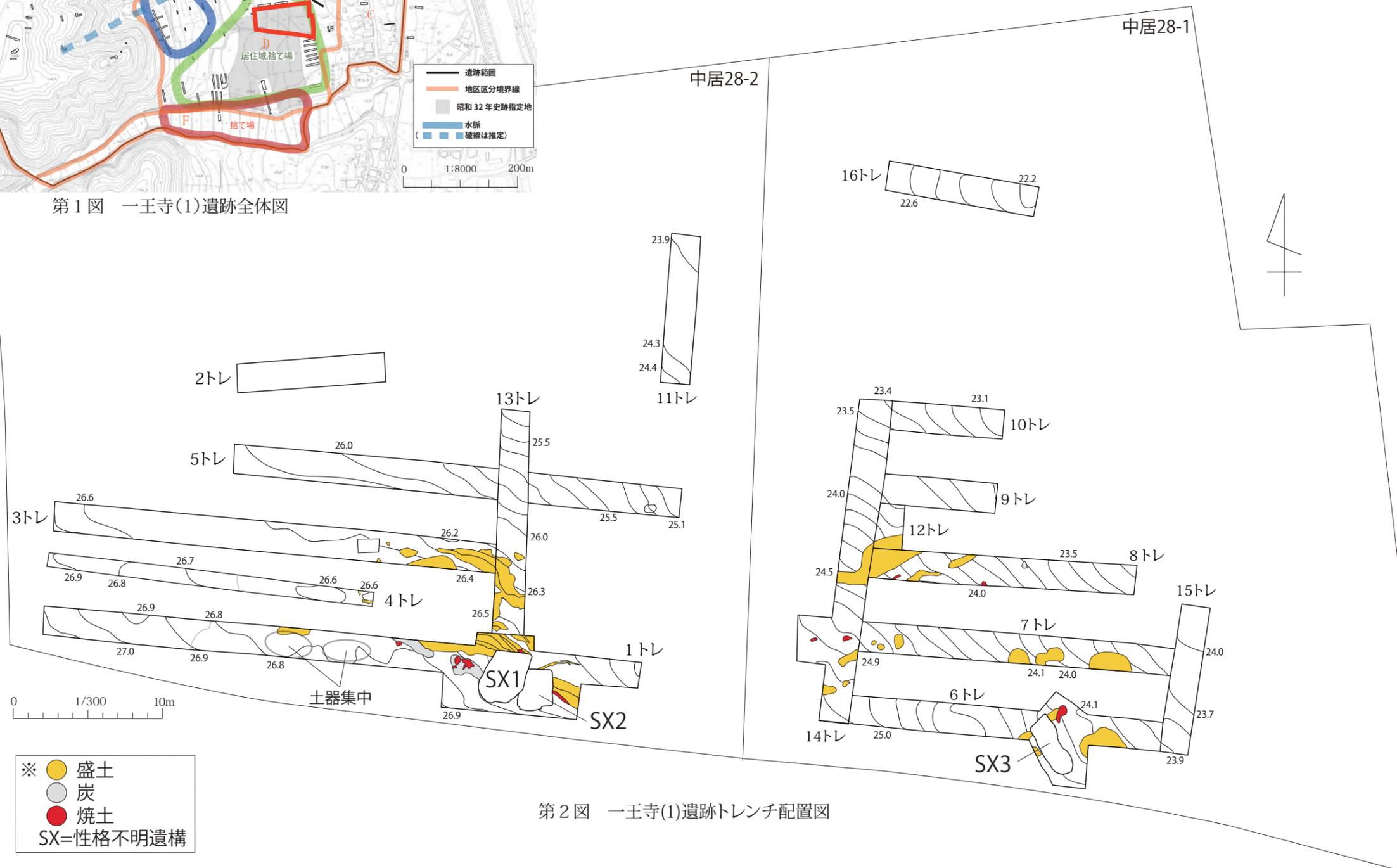
第1図 一王寺(1)遺跡全体図



第3図 2つの調査坑の実測図(100分の1)



第4図 SX1北壁の実測図(60分の1)



第2図 一王寺(1)遺跡トレンチ配置図